

17. 令和7年度 静岡県てんかん地域診療連携体制整備事業活動報告

国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター
院長：今井克美
統括診療部長：臼井直敬
地域連携係長：谷津直美
医療社会事業専門職：橋本睦美
専門職：森下大輔

まとめ

- ・当院は2025年にてんかんセンター開設50周年を迎えた。乳児から高齢者を対象に、てんかんを専門とする医師約25名（小児科、神経内科、精神科、脳外科）と多職種メディカルスタッフが短期検査入院から長期治療入院まで対応している。
- ・静岡県では当院を拠点にてんかん治療医療連携協議会を年2回開催し、活動報告、評価、計画立案を行っている。てんかん病診連携システムを静岡市静岡医師会と運用し、周辺地域への展開を進めている。円滑に診療連携を行った実績のある施設、診療科、医師に対するてんかん診療連携登録証の発行数は徐々に増えている。
- ・てんかんホットラインでは、当院受診歴の有無を問わずてんかんに関する相談を受け付け、大規模災害発災時は24時間対応できる体制をとっている。様々な職種を対象としたてんかんセミナーを年1回ずつ対面開催した。県内の特別支援学校職員を対象とするてんかんセミナーや静岡県民を対象とした市民公開講座を開催し、好評であった。院外HPでは、てんかん情報センターの内容をアップデートし、複数のパンフレットを無料公開している。てんかん啓発活動を町に出て行う趣旨で、静岡市中心部のイベント参加によるてんかん啓発活動を継続している。パープルデー活動もライトアップする場所を増やすだけでなく、パープルデーの意味や意義を知っていただくための市民対象の啓発活動を行っている。
- ・1、2、3次の縦の医療連携構築の強化はもちろんのこと、3次医療機関においても施設によって得手不得手な分野があり、3次医療機関の横の診療連携活性化も望まれる。

1. 静岡県の連携体制の概況

当院は1975年に国内で初めてとなるてんかんセンターを開設するとともに難病（てんかん）診療基幹施設に指定されており、2025年にてんかんセンター開設50周年を迎えた。静岡県のとてんかん地域診療連携体制整備事業は2015年から厚労省と県の事業として継続している。静岡てんかん・神経医療センターを拠点に、西部の総合病院聖隷三方原病院、中部の静岡済生会総合病院、たぐちクリニック、東部の伊豆医療福祉センターなどの医療機関と、静岡県健康福祉部障害者支援局長、静岡県健康福祉部障害者支援局障害福祉課精神保健福祉室長、静岡県精神保健福祉センター所長、静岡県富士保健所長などの行政担当者、てんかん患者、てんかん患者家族を構成員とする静岡県てんかん治療医療連携協議会を年2回開催し、活動報告、評価、次年度計画立案などを行っている。

静岡市静岡医師会と当院および静岡市内主要病院とのてんかん病診連携システムを2021年12月に開始し、その内容を静岡市静岡医師会ホームページ内のイーソーネット医療連携システムにて公開し、継続運用している。てんかん患者の静岡市葵区および駿河区における医師会会員からの当院へのご紹介と、病状の安定しているてんかん患者さんの当院から医師会会員への情報提供・戻し紹介のためのクリニカルパスの運用例も増加しており、静岡地区の連携体制を強化に寄与している。近隣の二次医療機関訪問によるてんかんに関する病病連携のための意見交換会は6回施行した。

病病連携促進事業 ※病病連携について意見交換を実施

訪問日	医療機関名
2025. 6. 3	榛原総合病院
2025. 8. 25	NHO 静岡医療センター
2025. 10. 9	磐田市立総合病院
2025. 11. 20	富士市立中央病院
2025. 12. 9	沼津市立病院
2026. 1. 13	浜松医科大学医学部付属病院



当院との間で円滑にてんかん診療連携が行われてきた医療機関、診療科、医師について、2020年よりお申し出に応じててんかん診療連携登録証を発行することで、てんかん患者が安心して連携医療機関を受診できるような取り組みをしている。現在までの発行件数は、県内16件、県外16件となっている。

2. 活動状況

診療体制

てんかん初診外来は小児科・精神科・脳神経内科・脳神経外科医師が小児・成人合わせて4-6名/日の診療予約を受け付けている。てんかん初診外来は問診・診察から始まり、採血、覚醒睡眠ビデオ脳波、脳MRIをその日のうちに施行し、考えられる診断と今後の治療方針を説明するとともに、様々な相談にも乗るようにしている。初診外来を通さずに初診前電話相談を通じての直接入院や、てんかん重積治療、長時間脳波目的やてんかんの可能性を除外するための検査入院も受け入れている。乳児の点頭てんかん疑いや発作群発などでは迅速な初診対応ができるように体制を整えている。

てんかん再診体制は4-7名/日の医師が診療し、成人てんかん医と小児てんかん医はともに毎日診療を行っている。定期的な当院通院に加えて、患者の状態に応じて地元の病院・クリニックと連携して当院受診を半年から1年に1度の検査時や状態変化時のみとするなど、様々な診療形態を提案している。

てんかん科の常勤医師は18名(てんかん専門医14名(うち指導医8名)、神経学会専門医5名、小児神経専門医5名、脳神経外科専門医4名など)、非常勤医師5名で、てんかん院内認定看護師、薬剤師、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士、心理療法士、ソーシャルワーカー、保育士、放射線技師、管理栄養士、臨床検査技師と共に包括的なてんかん診療に取り組むとともに、各種相談にも対応している。

てんかん病棟は2024年12月からはA3病棟(てんかん外科関連等)、A4病棟(小児てんかん等)、A5病棟(思春期・成人てんかん等)の3病棟146床で運用し、長時間ビデオ脳波室は各病棟で3-6台(合計15台)が常時稼働している。

MRIは1.5Tと3Tの2台が稼働中で必要に応じて使い分け、発作時SPECTは年間約60件施行し、てんかん焦点検索と外科治療適応判定に役立てている。PETの設備はないが、近隣の静岡県立総合病院に依頼してFDG-PETを年間133件検査している。

診療実績

外来初診てんかん患者数は、2024年度は1077名/年、てんかんと神経難病を合わせた当センターの紹介率92.5%、逆紹介率249.2%といずれも前年を大きく上回っており、医療連携がより一層進んでいることを反映している。てんかん外来再診患者数の平均は98人/日であった。居住都道府県別の割合は、(初診、再診、新入院)別に、静岡県(37.6, 68.4, 23.6%)、神奈川県(21.7, 10.2, 19.7%)、愛知県(9.1, 4.1, 10.1%)、三重県(4.2, 0, 6.2%)、東京都(5.2, 3.1, 7.2%)、岐阜県(2.7, 3.1, 4.7%)、大阪府(2.4, 0, 1.8%)、長野県(2.3, 5.1, 2.6%)、山梨県(1.9, 1.0, 1.8%)、埼玉県(0.8, 1.0, 2.5%)、兵庫県(1.2, 0, 0.3%)など東海道と周辺地域が多数を占めるが、日本全国に加えて、外国からの新入院も15名(モンゴル7、中国5、スリランカ1、アメリカ1、メキシコ1)受け入れた。

てんかん病棟新入院患者数は2024年度2819名、入院中のビデオ脳波モニタリング患者数は2207名/年(小児1381、成人826)であった。

てんかん外科治療は、2024年度は69件で、内訳は側頭葉切除30件、側頭葉外皮質切除24件、多葉離断・切除7件、半球離断1件、脳梁離断3件などであった。頭蓋内電極留置は2件のみで、大半の症例では侵襲的な頭蓋内脳波を経由することなく手術が可能であった。

てんかんの食事療法は1-43歳の30名に継続中で、食事療法の内容はケトン食222、修正アトキンス食8である。当院のホームページにおいて「ケトン食 簡単おいしいレシピ集」を公開し、随時追加・アップデートをしている。



相談事業

厚生労働省てんかん地域診療連携体制整備事業のてんかん診療支援コーディネーターとして7名(常勤6名、非常勤1名)が認定を受け、てんかんホットライン(専用電話回線、専用電子メール)等からの相談に対応している。てんかんホットラインでは、当院受診歴の有無を問わず、患者や家族、医療・福祉関係者からのてんかんに関する相談を国内・国外から受けている。専用電話回線による相談受付は平日9~17時に実施し、時間外と土日祝日は急ぎの場合のみ当直部長が対応している。大規模災害発災時は24時間受け付けも可能な体制をとっている。電子メールは必要に応じてメディカルスタッフの協力を得ながらてんかん専門医が対応している。2024年度は電話相談335件、メール相談104件であった。2025年4月~12月における相談者の年齢、居住地、相談内容は表のとおりである。

件数

患者年齢

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳～	不明	合計
2025年度	25	26	18	36	48	35	20	30	29	6	65	338

地域別件数

居住地

静岡県内	静岡県外	海外	不明
54	241	7	36

相談内容

(重複記載)

相談内容	受診相談	病状治療相談	運転免許・資格	社会制度・保険	就労雇用進路	結婚妊娠出産	日常生活対応等	学校等病名告知	他医療機関紹介	Dr・SWより	その他	合計
2025年度	163	147	12	24	6	1	28	0	0	0	0	381

相談後の対応方法 (重複記載)

相談後の対応	相談のみ	当院受診・直入	当院受診検討	医療機関紹介	その他	合計
2025年度	212	98	39	30	25	404

研修事業

医師、看護師、その他のメディカルスタッフのてんかんに関する個別研修を随時受け入れている。2025年度は、小児科医1名1機会、脳神経内科医4名4機会、脳外科医7名7機会、精神科医2名2機会、産婦人科医1名1機会(各1-5日間)、を受け入れた。

てんかん研修セミナーを毎年、医療関係者(医師、看護師、臨床検査技師等)および、福祉・教育等の専門職を対象に開催している。COVID-19流行が一段落した2022年秋から順次対面にて再開し参加者からも好評である。

医師・看護師を対象とするてんかん学研修セミナー

開催日	研修会	内容	参加者
2025.10.23-24	てんかん看護セミナー	医師、看護師、検査技師、薬剤師、作業療法士、ソーシャルワーカーによる講義(対象:看護師)	34名(対面)
2025.11.21-22	成人てんかん学研修セミナー	医師による講義(対象:医師)	27名(対面)
2026.1.23-24	小児てんかん学研修セミナー	医師、ソーシャルワーカーによる講義(対象:医師)	32名(対面)

教育・福祉専門職対象のてんかん研修セミナー

開催日	研修会	内容	参加者
2025.8.21 オンデマンド 配信中	第50回小児てんかん専門職セミナー	医師、看護師、保育士、理学療法士、心理療法士による講義	38名(対面) 467件(オンデマンド)
2026.2.19	第51回成人てんかん専門職セミナー	医師、看護師、作業療法士、薬剤師による講義	予定(対面)

脳波検査技師対象のてんかん研修セミナー

開催日	研修会	内容	参加者
2025.11.27	臨床検査技師のための脳波検査セミナー	医師、臨床検査技師による講義と実習	16名(対面)

特別支援学校職員などを対象にてんかん発作への対応等に関する講演会を静岡県内の特別支援学校において不定期に行った。

学校関係の講演会

開催日	学校名	内容	参加人数
2025. 5. 1	掛川特別支援学校	てんかん発作の対応と実演	27名 (対面)
2025. 6. 23	静岡県中央特別支援学校	てんかんの基礎講義	23名 (対面)
2025. 8. 1	吉田特別支援学校	てんかんの基礎講義 てんかん発作の対応と実演	40名 (対面)
2025. 8. 28	浜北特別支援学校	てんかんの基礎講義 てんかん発作の対応と実演	49名 (対面)
2025. 12. 19	清水特別支援学校	てんかん発作の対応と実演	40名 (対面)

啓蒙活動

静岡県西部、中部、東部地域において年1回ずつ、てんかんについての市民公開講座とてんかん専門医による個別相談会を日本てんかん協会静岡県支部との共催で行っている。

市民公開講座（個別相談会）

開催日	対象	開催地	内容	参加人数
2025. 8. 30	静岡県民	浜松市	<ul style="list-style-type: none"> 講演会（医師） てんかん発作の対応と実演（院内てんかん認定看護師） 個別相談 	37名 対面 個別相談 6件
2025. 9. 20		清水市		40名 対面 個別相談 4件
2025. 10. 25		沼津市		68名 対面 個別相談 8件

てんかん研修セミナーや各種講演会に参加できない人のためにホームページ上にてんかん情報センターを開設し（右記QRコード）、疾患の説明から日常生活の過ごし方に至るまで幅広い内容の情報とQ&Aを公開し、随時追加・修正している。



2023年に作成した「臨床検査技師のためのてんかんデジタル脳波検査ガイドブック」を当院ホームページ上で公開し無料ダウンロード可能とするとともに、検査技師や医師の求めに応じて無料配布している。

てんかんを持つ人の就労を支援するために作成したパンフレットと動画をてんかん情報センター内で閲覧をできるようにし、静岡県庁には訪問企業への配布を依頼している。

てんかんの啓発は病院の中でできることは限られるため、町の中に出て行って積極的に活動することを重視し、静岡市中心部で年1回開かれる静岡市主催「こころのバリアフリーイベント」では当院ブースを設置し、一般市民を対象にてんかんについての啓発活動を行っている。今年度は2026年3月14日（土）に予定している。



パープルデー関連では、静岡市役所の協力により静岡市役所葵塔（3月23～26日）と駿府城公園巽櫓（3月24～26日）、静岡けやきライオンズクラブの協力により日本最長の吊り橋である三島スカイウォーク（3月19-26日）をライトアップし、今年度からは浜松ライオンズクラブの協力により浜松アクタワーもライトアップの予定である。3月20(祝)には三島スカイウォーク入場者にてんかん啓発のためのパンフレットとグッズを配布して趣旨を説明する予定である。院内では3月26日には演奏会、様々なワークショップや参加型活動を含む院内セレモニーを予定している。



今後の課題

当院はてんかんに関する医療資源に恵まれており、より多くの患者さんにご利用いただきたいと考えている。1, 2, 3次医療機関の縦の診療連携の強化が進められているが、1, 2次医療機関からご紹介いただく患者さんの中には、その後の地元医療機関での対応やてんかんセンター病院との診療連携に消極的な説明をされたという事例が未だにあるのが残念である。3次医療機関においても、患者の年齢、診療科、検査体制、外科や食事療法への対応、包括医療など、施設によって得手不得手な分野があり、3次医療機関の横の診療連携の活性化も望まれる。

**てんかんのある人に
就労の機会を!**

てんかんがあるけれど働きたい、働ける人たちがいます。
正しい理解で、雇用支援にご協力ください。

- はじめに 1
- てんかんについて 3
- 就労好事例 5
- 合理的配慮について 9
- てんかん Q & A 11

